

- 通し柱 (とおしばしら)

建登柱(たてのぼりばしら)とも云う。 1~2階を1本の柱を通す材で隅又は要所建てられる柱。建物の大小によって多少の違いはあるが通し柱(軸組桁行梁間)間隔を4間以内に必ず、架設することがこのましい。

通し柱の大きさ(寸法)は管柱(くだばしら)寸法より15mm(5分)以上、30mm(1寸)位大きい寸法とする。基本的に建物真と通し柱真は同一とすること。

通し柱に横架材(差物)を取付はる。 隅二方差し、平二方差し、三方差し、四方差しなどの仕口に組まねばならぬ場合がある。仕口の加工による断面積が減じて弱るので仕口加工に注意し、締め付け(込栓等で独鈷締め)、金物で緊結補強する。または添柱、ひうち桁等による補強材を使用する。

通し柱(軸組材)すなわち構造材で、化粧柱と野柱(地柱)に大別される。化粧柱から先に拾っていく。長さについては、柱図に表示した長さ(土台天端~桁下端)+柱寸法×2とし必要長さとし数量(本数)を記入する事。化粧柱の品質や化粧面に付いては、前記(化粧柱の仕上げ寸法に付いて)による。

- 管柱 (くだばしら) 半柱(根柄、上柄の付いた柱)含む。

階上・階下別々の柱を「管柱」と云う。床柱(とこばしら)などは造作材とする。化粧柱・野柱(地柱)など1階か2階分別すること。長さについては柱図に表示した横架材間長さ+柱寸法×2とし必要長さとし数量(本数)を記入する事。化粧柱の化粧面に付いては、前記(化粧柱の仕上げ寸法に付いて)による。

建物の大小や複雑なことで野柱(地柱)の数量を約5%位割増しとする。(※化粧柱より野柱で墨付け加工間違いがままある。補足材として現場に搬入する。)

- 差鴨居 (さしかもい)

化粧部材で、構造(軸組の横架材)的に主要な部材であり、(意匠面を兼ねて使用されているのが玄関の差鴨居や縁先の差鴨居等がある)。成に付いては柱間の長さや、使用が所によって大きくかわるが、一般的には柱寸法より大きい成が使用されている。柱面に差鴨居(横架材)を架構(差物加工)し締め付け込栓打ち(独鈷締め)とする。

大黒柱・蛭子柱(小黒柱)を使った建物にはよく見られる。

- 軸組大壁下地材、窓台(まどだい) 楣(まぐさ)

主として大壁仕上げの軸組で開口部の化粧枠やサッシ取付け下地材で、化粧材等の歪みや曲りが起ることがない様固定する下地材である。必ず必要長さ取付ける軸材の寸法を加えた長さを明記する。 1・2階分別すること。

★ 窓台 ~ 開口部の幅によって窓台の大きさに違いはあるが、柱間に架設する窓台は基本的には柱の大きさと同じ位の大きさ(寸法)とすること。軸材との仕口は傾ぎ大入れ短柄差し補強金物締めとし、外力に対し軸組補強の役割をもつ部材。

開口幅が狭いもので間柱間や柱と間柱に取付ける場合は窓台の成は柱寸法の1/2位とし柱側は15mm(5分)位大入れとし間柱は胴付きとし大釘打ち補強金物にて固定する。